

## 米国 コアインフレは自動車の一時的な上昇を受け小幅上ぶれ(6月生産者物価)

発表日：2007年7月17日(火)

～川上でのインフレ圧力の高まりも転嫁率の低下で波及は限定的なものにとどまる～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

- 6月の生産者物価(最終財)は前月比▲0.2%と市場予想の同+0.2%に反し失速した。食品が同▲0.8%とマイナス幅を拡大、エネルギー価格は同▲1.1%とマイナスに転じた。一方、生産者物価コアは同+0.3%と市場予想の同+0.2%を上回った。ただし、自動車価格の上昇によって押し上げられており自動車を除くコアでは同+0.1%にとどまる。自動車の高い伸びも例年6月に実施される値下げが4、5月に行われたため、季節調整後の数字が押し上げられた。
- 競争の激化や生産性の向上等を背景に中間財から最終財への波及は限定的なものとなっております、最終財(コア)は緩やかな上昇にとどまっている。
- 3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では、最終財コアに6ヵ月程度先行する中間財コアが2006年8月から2007年1月にかけて低下したことから、2007年7月まで鈍化傾向を辿ろう。その後は中間財コアが2月から6月まで上昇したため、最終財コアは8月に上昇に転じ2008年1月まで上昇ペースの加速が予想される。ただし、競争の激化や生産性の向上等を背景に、川中である中間財から川下である最終財への波及が限定的なものにとどまるとみられ、最終財コアは緩やかな上昇になると見込まれる。
- コアインフレの上振れにより公表後、債券利回りが上昇、ドルが買われ、株価は小幅調整した。

生産者物価 (Producer Price Indexes)

	最終財		コア		エネルギー		中間財		原材料		WTI
	▲	(+)	▲	(+)	▲	(+)	▲	(+)	▲	(+)	
06/07	▲0.1	(+4.0)	▲0.5	(+0.8)	+0.7	+0.2	+0.5	+0.2	+2.5	+1.5	74.4
06/08	+0.4	(+3.8)	+0.4	(+1.2)	▲0.5	+0.4	+0.4	+0.4	+2.6	▲3.4	73.1
06/09	▲1.1	(+0.9)	+0.3	(+1.3)	▲5.9	▲1.3	+0.0	+0.0	▲3.8	+1.4	63.9
06/10	▲1.5	(▲1.2)	▲0.4	(+1.0)	▲5.8	▲1.2	▲0.1	▲0.1	▲9.1	▲2.7	59.1
06/11	+1.6	(+0.9)	+0.9	(+1.9)	+5.4	+0.6	▲0.4	+0.6	+11.7	▲0.6	59.4
06/12	+0.7	(+1.1)	+0.1	(+2.0)	+2.4	+0.9	+0.1	+0.1	+2.5	+1.7	62.1
07/01	▲0.6	(+0.1)	+0.2	(+1.7)	▲4.3	▲0.7	+0.0	+0.0	▲5.9	+1.8	54.7
07/02	+1.2	(+2.4)	+0.4	(+1.8)	+3.0	+0.8	+0.0	+0.0	+9.4	+2.9	59.4
07/03	+1.0	(+3.2)	+0.0	(+1.7)	+3.6	+1.3	+0.6	+0.6	+4.7	+7.1	60.7
07/04	+0.7	(+3.2)	+0.0	(+1.5)	+3.4	+0.9	+0.8	+0.8	▲1.4	+0.4	64.0
07/05	+0.9	(+4.1)	+0.2	(+1.6)	+4.1	+1.1	+0.4	+0.4	+2.5	+0.1	63.5
07/06	▲0.2	(+3.3)	+0.3	(+1.8)	▲1.1	+0.5	+0.4	+0.4	+0.0	▲0.2	67.5

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 数字は季調済前月比。但し、( ) 内は前年同月比 (未季調)。

### コアは前月比+0.3%と市場予想を上回った

07年6月の生産者物価(最終財)は前月比▲0.2%と市場予想の同+0.2%に反し失速した。食品が同▲0.8%とマイナス幅を拡大し、エネルギー価格が同▲1.1%とマイナスに転じた。一方、変動の大きい食料・エネルギーを除いた生産者物価コア(最終財コア)は、同+0.3%と市場予想の同+0.2%を上回った。ただし、自動車価格の上昇によって押し上げられており自動車を除くコアでは同+0.1%にとどまる。さらに、自動車の高い伸びも例年6月に実施される値下げが4、5月に行われたため、季節調整後の数字が押し上げられた(原数値では同+0.2%)。引き続き自動車販売は積極的な販促を実施しないと売れない状況に変

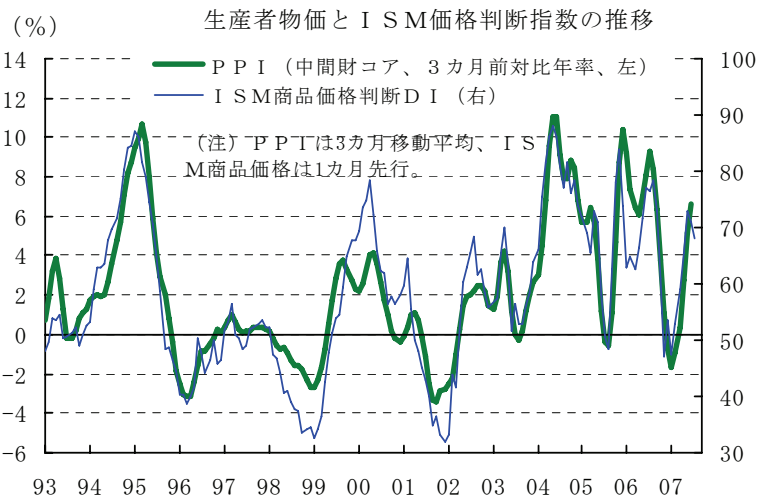
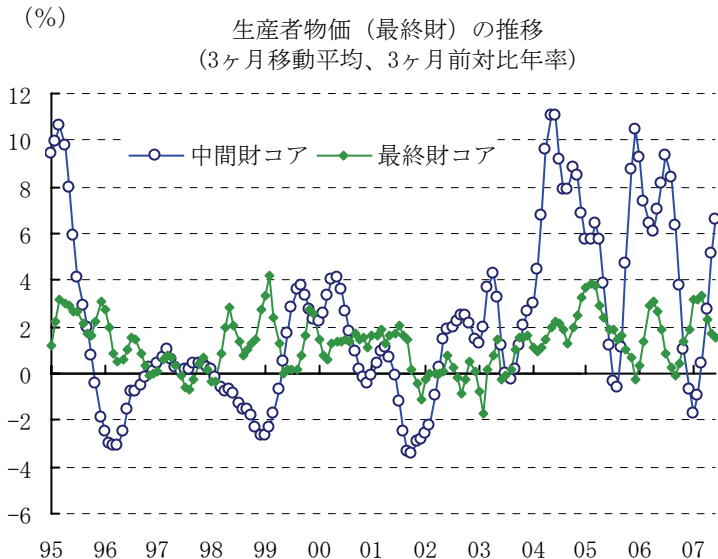
わりないため、7月には自動車価格は下落すると予想される。

競争の激化や生産性の向上等を背景に2004年以降、川中である中間財から川下である最終財への波及は限定的なものにとどまっております、最終財（コア）は緩やかな上昇が続いている。

### 最終財コアは 2007年7月まで 鈍化した後、年内 上昇ペース加速

変動の大きい食料・エネルギーを除いた生産者物価コア（最終財コア）のモメンタム（3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率）は、最終財コアに6ヵ月程度先行する中間財コアが2006年8月から2007年1月にかけて低下したことから、2007年7月まで鈍化傾向を辿ると見込まれる。

2007年8月以降に関しては、中間財コアが2、3、4、5、6月と上昇したため、最終財コアは2007年8月に上昇に転じた後、2008年1月まで上昇ペースが加速すると予想される。しかし、競争の激化や生産性の向上等を背景に、川中である中間財から川下である最終財への波及が限定的なものにとどまるとみられ、最終財コアは緩やかな上昇になると見込まれる。



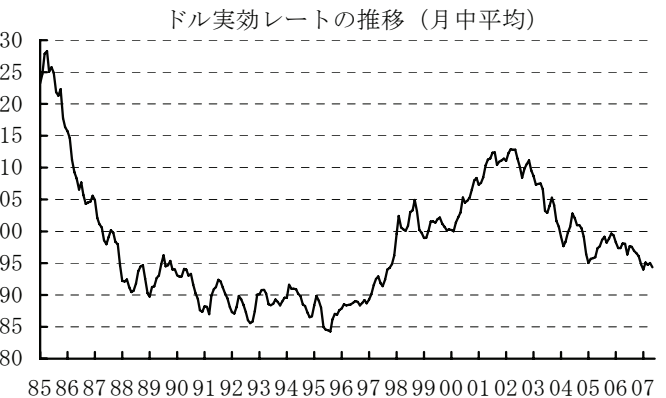
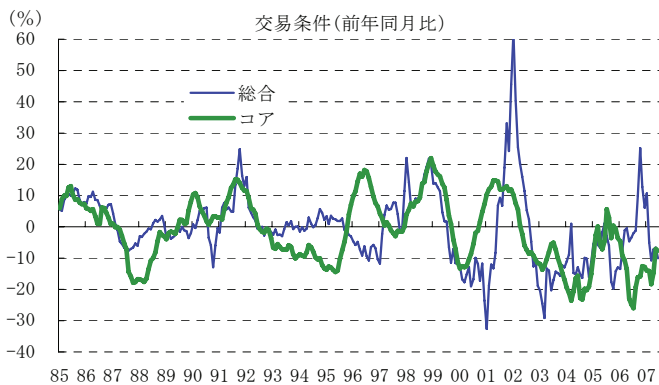
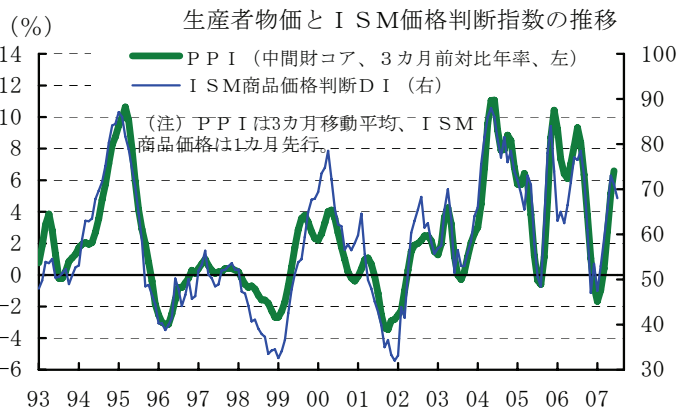
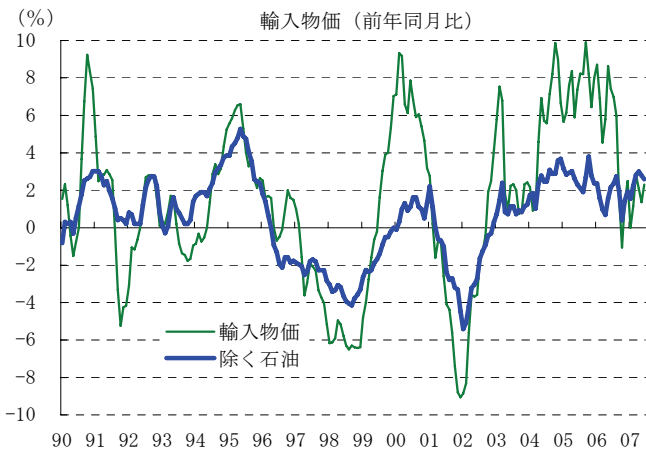
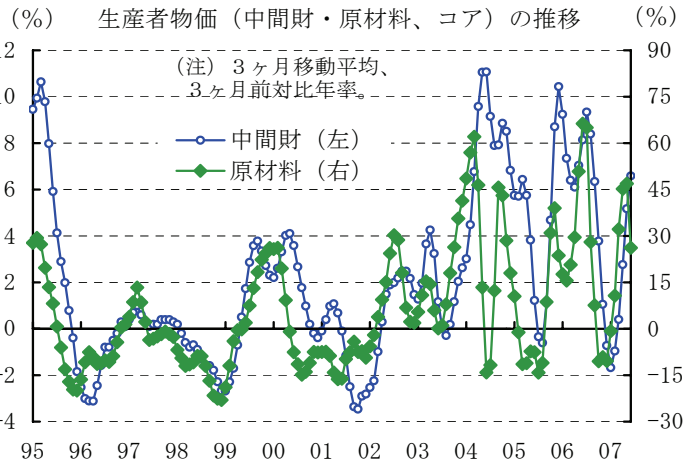
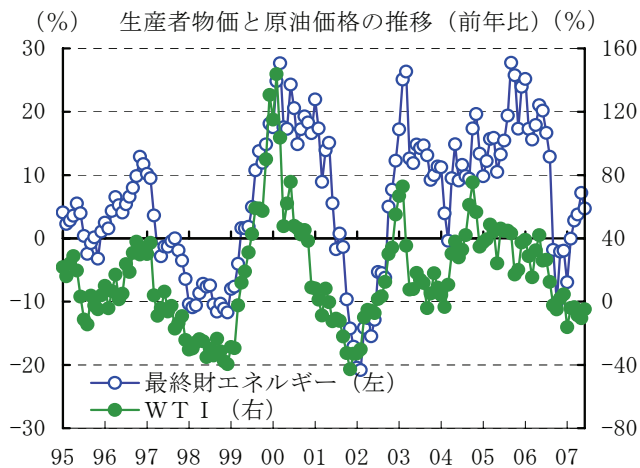
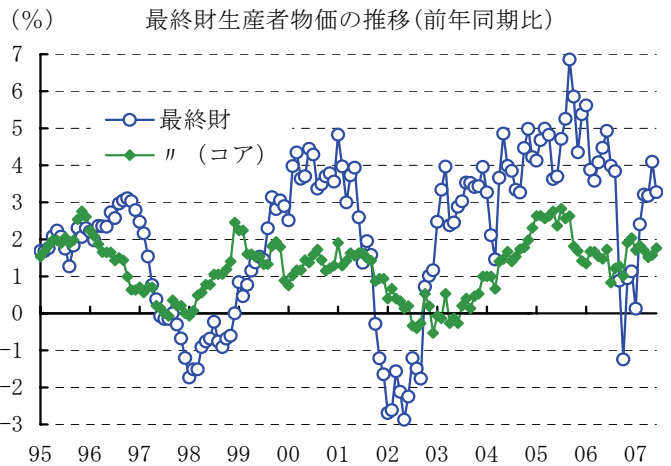
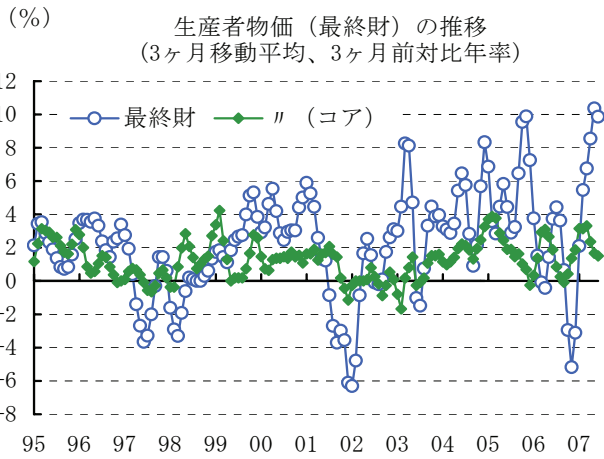
### 資本財も軽トラック の上昇で小幅加速

最終財でのカテゴリー別の動向をみると、食品関連では新鮮野菜、卵、牛肉、豚肉、加工若鶏、ソフトドリンク等の下落によって食品価格は前月比▲0.8%（前月同▲0.2%）と下落幅を拡大した。

エネルギーは前月比▲1.1%（同+4.1%）とマイナスとなった。天然ガスが同+2.6%（同+0.9%）と加速した一方で、ヒーティングオイルが同▲0.5%（同+2.3%）、家庭用電力が同▲0.1%（同+0.7%）、ガソリンが同▲3.9%（同+10.2%）と下落した。

消費財（エネルギー・食料品を除く）は前月比+0.3%（前月+0.3%）と同率の伸びとなった。乗用車価格が同+1.4%（前月▲0.2%）と大幅なプラスとなった一方、宝石等、タイヤが下落した。

資本財は前月比+0.3%（同+0.1%）と加速した。コンピューターが下落幅を拡大し、鉱業機器・設備、金属加工機器、変圧・動力調整器は下落に転じた一方で、軽トラック、トレーラー、金属成型機器、ポンプ・プレッサー、X線医療機器、通信機器が上昇した。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。